

# 関西民放クラブだより

関西民放クラブ30周年記念  
「混声合唱団コールまカーナ  
創立25周年記念コンサート」

川村輝夫・指揮者(KBS)

2017年10月25日(水)午後  
2時に開演した演奏会は、関西民  
放クラブのクラブソング『いきい  
き夢を』(高田直和作詞 岡本俊夫  
作曲)で始まりました。指揮はこの  
曲の作曲者・岡本俊夫(91歳)さ  
んです。

会場は兵庫県立芸術文化センタ  
ー小ホール(400席)。  
コールまカーナの編成はソプラ  
ノ10名、アルト9名、テナー8名、  
ベース10名。

第一部は、「フオスターメロデー」  
を津川圭一、伊庭孝、堀内敬三の  
古典的訳詞による日本語で歌いま  
したが、この合唱団には、相当な  
背伸びを強いることになってしま  
ったようです。結果としては、メ  
ンバーからも聴衆からも不評。反  
省しきりです。

さて、第二部は、2年前に団内  
で誕生したウクレレクラブ(名称  
はマカナカ・アイランダーズ、別

名カナカあわなんだーズ)の公  
式デビューで、メンバーは華やか  
なレイを掛けての登場です。



新しく誕生したウクレレクラブ

メロディー楽器がないので、仕方  
なく私が始めたスティールギター  
ですが、まだまだおぼつきません。  
本番直前にパワーの出るアンプを  
借りての演奏。『ブルーハワイ』は  
美声を誇るエルビス大河内俊彦さ  
んのソロ。次に喜納昌吉の『花』  
では、ウクレレの単弾きによる前  
奏・間奏・後奏を披露。ここまで  
は9名のメンバーの演奏で、『南の  
島のカメカメハ大王』『アロハオエ』  
は「まカーナ」全員が加わっての  
演奏。このウクレレ合奏によって、  
会場の雰囲気ガラッと変わり、  
「まるで文化祭のステージのよう

な初々しさ」とお客様からのお  
言葉頂きました。

15分の休憩の間に衣装替え。第  
三部の「愛唱歌集から」へと進行  
しました。『二度とない人生だから』  
(坂村真民作詞・鈴木憲夫作曲  
『ラ・ゴンドリーナ』は大河内  
さんの訳詞にクローバークラブ「水  
曜会」の脇地駿さんが編曲。『少年  
時代』(井上陽水作詞・井上陽水・  
平井夏美作曲)、『黄昏のビギン』  
(永六輔作詞・中村八大作曲・山  
室紘一編曲)など懐かしい曲がお  
客様の共感を呼び、好評でした。

男声合唱の名曲『U BO J』(ウ・  
ボーイ)を混声に編曲して、歌詞も  
正調クローアチア語での演奏に、ク  
ロアチア人で同国名誉領事秘書の  
山崎エレナさんから「とても楽し  
かったです。『U BO J』もあれ  
ほど完璧に歌えるのは、やはり川  
村様ご夫妻のおかげですね」とい  
う特別な感想が寄せられました。  
長年にわたって歌ってきている  
『アヴェ・ヴェルム・コルプス』  
(モーツァルト作曲)にも「良か  
った!」の声が多く、選曲の良さ  
が評価されました。最後の2曲は、  
東京から駆けつけてくださった関  
東民放クラブ合唱団14人のみなさ

さんと一緒に、『小さな幸せ』(谷本  
智子作詞作曲、富岡健編曲)と、  
東京の砂田郁郎さんの指揮で『森  
の教会堂』(ピッツ作曲、津川圭一  
編曲・訳詞)を熱唱。大きな拍手  
にこたえてアンコールは、『はるか  
な友に』(磯部俊作詞作曲)。そし  
て、会場からのお客様も加わって  
恒例の『ハレルヤコーラス』(ヘン  
デル作曲)は62名にもなる大合唱  
でした。

さて、「まカーナ」としては初の  
試み、「ロビーストーム」(会場の  
出口付近で、お客様を送り出す演  
奏)をやってみました。楽しいも  
のですが、出口付近が混み合っ  
てスムーズに帰れなくなってしまう  
ので問題ありなのですが、コンサ  
ートの余韻：という意味では雰  
気のあるものになりました。



関西民放クラブの皆さんと一緒に